

私の周りには、素敵な方がたくさんいます。すれ違うといつも笑顔で声をかけてくれる人。電話で話すと、最初に必ず私を気づかせてくれる人。いつでも相手に心を配れる人。中でも紹介したいのは、相手のことをいつでも自分なりに評価しようと心がけている友人のことです。

数年前、私は、とあるサークルでたくさん仲間と出会いました。年齢や性別、職業も違いますし、中には学生もいます。それだけ色々な人が集まれば、気が合う人ばかりではありません。

ある時、他のサークルで活動していたAさんが新たにメンバーに加わりました。Aさんは元々仲間の間であまり評判が良くなく、私たちは、本人のいない所で色々と噂話を聞かされました。私は、単純に「Aさんでそういう子なのか」と思い込んでしまいました。

けれども、そんな時、私の友人は決まって「みんなはあんな風に見えるけど、私がAさんに何か嫌な思いをさせられた訳じゃないし、私と一緒にいる時は良い子。私はみんなの話に左右されずにAさんと付き合いたい」と言っていました。

彼女は、いつでも自分の「フィルター」で相手を見ることを心がけているのです。それは、偏った

## 「フィルター」

見方をするという意味ではなく、既に周りの人たちによって出来上がった「フィルター」に頼らず、その都度自分自身で相手を判断しようとしているということです。

周りから聞く人の評価には、思いのほか影響力があり、ともすればまるで自分で評価したことのように勘違いしてしまいがちです。しかし、偏見を持たず、きちんと相手と向き合い、自分が感じたままに評価することで、時には新たな人間関係につながることもあるのではないのでしょうか。

周りの評価を無視することはできませんが、安易に同調するのはなく、自分の「フィルター」をぜひ大切にしたいものです。そして、周りの人がそれぞれの「フィルター」できちんと評価できるように、自分が出した評価を不用意に発信しないよう配慮できる人でありたいものです。

\*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは  
人権啓発広報委員会

(☎880・6569) まで